

# 委員会レポート①

10月24日、総務文教常任委員会（中村純也委員長）は、「豊頃町立学校校舎等建築検討委員会の検討状況等について」として、同検討委員会作成の「豊頃町立学校校舎等の建築のあり方について」とする報告書の調査を行いました。

## 1 調査の経過と結果

### (1) 豊頃町立学校校舎等建築検討委員会の設置概要

本検討委員会は、平成28年度に総合教育会議において、豊頃中学校校舎の建替えが課題提起されたことを踏まえて設置された。

平成29年7月から平成30年8月までに、検討委員会を5回、道内小中学校の視察を2回行い、意見交換を行っている。

### (2) 検討委員会報告書の概要

本報告書の前段では、本町の人口推計を基に児童生徒数の減少状況、教育環境の変化を背景とした



教育委員会からの概要説明

学校教育法の改正や学習指導要領の改訂を踏まえた検討を行ったことについて、

検討事項とその結果は、次の①から④までの4項目である。

#### ① 校舎等の建築に関する事

中学校の建築方法では、新築と改修とを比較検討し、築後43年が経過し、将来的に多額の維持補修費用が予想されることから、新築が妥当としている。

#### 建築形態・規模では、単独校舎と小中併設校舎とを比較検討

し、全国的な小中一貫教育への流れや教育環境の変化に対応し得る学校施設を目指すため、小中一体型併設校舎の建設が望ましいとしている。また、全学校施設を新築する方法と、現豊頃小学校の一部改築と豊頃中学校の新築併設する方法の二案についても比較検討している。

#### ② 学校施設における環境整備に関する事

建設場所では、現豊頃中学校敷地と現豊頃小学校敷地に建設する場合を比較検討している。

#### ③ 建築に係る財源等、予算に

## 関すること

建築予定年度では、築後45年（平成32年度）、築後50年等を基に意見交換し、本町の財政事情によるところが大きい。早期の新築が望ましいとしている。

#### ④ その他校舎等の建築にかかわる課題に関する事

付帯意見及び留意事項では、茂岩保育所の併設について意見があつたが、諸課題の検討等が必要のため、具体的に言及しないとしている。また、小中一貫教育の方向性では、当面は報徳のおしえを中核に据えながら、ICT機器等を活用した遠隔授業や小中連携教育の深化を図りつつ調査研究を進めるとし、学校再編を検討したものではないことも示されている。

#### 2 まとめ

本調査では、これまで当委員会が実施した所管事務調査報告などから質問事項をまとめ、それらへの回答と報告書の説明を受けた。この報告書の検討に当たっては、豊頃中学校の老朽化に伴う建替えについての検討委員会としての考え方をまとめたものであることを再度確認できた。その上で、本町教育の将来的な方向性や目標設定については、本検討委員会における検討項目ではないことから、町教育委員会において校舎建築と平行して検討されるものと解した。

今回の学校校舎等の建築検討に当たっては、全国的に小中一貫教育への流れが加速している状況を踏まえて検討を行ったとしているが、新たな学校校舎のもとで行われる教育の姿を示した上で、校舎建築を進めるべきではないかとの意見や、建築場所については、現豊頃小学校及び豊頃中学校に隣接する土地も含めての検討も必要ではないか。また、今後の進め方や現在までの検討内容について、町民への情報提供を積極的に進めることが必要ではないかなどの意見が出された。

※要約掲載

# 委員会レポート②

11月22日、産業厚生常任委員会（相澤昌幸委員長）は、「ジュエリーアイス観光の現状と課題について」として、ジュエリーアイス観光の実績、今後の課題等について調査を行いました。

## 1 調査の経過と結果

### (1) ジュエリーアイス観光に取り組むまでの経過

ジュエリーアイスとは、十勝川の氷が氷結し、割れた氷が太平洋に流れ出し、波にもまれて大津海岸に打ち上げられる氷の塊である。平成24年に本町観光大使の浦島久氏が、ジュエリーアイスと命名し、メディアに取り上げられたことをきっかけに多くの観光客が訪れるため、住民の安全・安心と観光地としてよりよくすること



商工観光課からの概要説明

### (2) ジュエリーアイス観光の実績

平成28年度に十勝観光連盟が、十勝として初めてジュエリーアイス冬季の観光資源として紹介し、翌年度に町観光協会が、観光客受入れの整備に取り組み始めた。

具体的には、北海道観光振興機構の補助金を活用し、パンフレット、ロゴマーク、大津海岸の最新情報等を随時更新した紹介用ホームページの制作、東京等でのプロモーションに参加した。また、多くの雑誌・テレビ・ラジオで取り上げられ、映像や写真等を提供した。受け入れ態勢の整備では、大津市街に休憩所・物産販売所、仮設トイレ4基を設置し、物産販売所では町内事業者が食事等の販売を行った。駐車場は、乗用車約70台分を整備し、大津港町の築山をバスターミナルとして用意した。また、誘導看板を多数設置し、見学場所の案内や駐車中のエンジン停止を喚起した。その結果、観光客入込数（約6千700人）、フェイスクラウド数（約42万人）は目標を大きく上回った。



大津市街での現地調査

### (3) 今年度の観光シーズンに向けた取組

大津地域と観光客との共生を図るため、大津漁業協同組合及び地域住民との意見交換会を開催し、予想を上回る観光客が早朝に訪れたことによる騒音や路上駐車、トイレの維持管理費用、観光ガイドの育成、観光消費の拡大策、観賞できないときの対応などの課題が出てきた。

このため、町観光協会では、今年度もより魅力ある観光資源を目指して交流人口の拡大につなげる

## 取組を実施する。

具体的には、昨年度の課題から、休憩所・物産販売所及び仮設トイレを汐見橋付近へ移設し、規模を拡大する。また、駐車場は、乗用車約130台分が停められるよう追加整備し、ガイド育成研修会の実施、多言語対応のパンフレットの制作等を行うとしている。

### (4) 今後のジュエリーアイス観光の方向性

観光客数は順調に推移しているが、景観を楽しむだけの通過型観光の割合が多く、町内での消費活動につながっていないのが現状である。そのため、町内の他の観光地、歴史的資源等とのつながりの強化により交流人口の維持・増加を図り、長期滞在型の観光地づくりを進め、観光客を移住定住につなげ、人口減少対策に資する取組を目標としている。

#### 2 まとめ

本調査では、ジュエリーアイス観光の現状と課題について、休憩所並びに駐車場整備場所の現地視察を含めて調査した。ジュエリーアイスは、昔からあ